
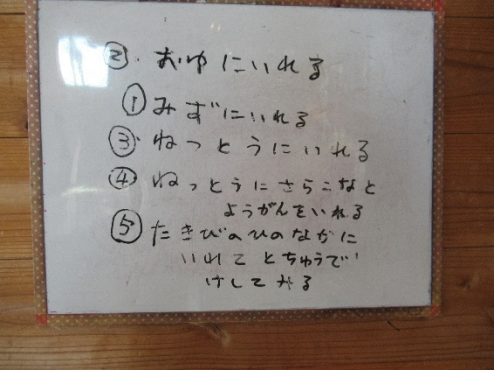



1 団体名

麦わらぼうしこどもえん

2 今年度の活動概要

<子どもたちが興すブームが深い学びへと繋がる>

1 溶岩ブーム	
	<p>園舎近くの空き地で、なぞの溶岩（なぜあったのか？が不思議なのだが…）を拾ってきた子どもたち。</p> <p>一時期「恐竜ブーム」が起こったほど、恐竜時代に関心のある子どもたち。火山＝恐竜のイメージとばかりに興味津々で一人ひとりが手に取って注意深く観察を始める。</p>
	<p>「地球の中の熱で溶けた石が冷えて固まった物が溶岩」という知識があった子どもたち。今度は自分たちで、溶岩を溶かしてみたいと思うようになる。</p> <p>この話題をミーティングの時間に話し合うこと数日、写真のようなアイデアが出てきた。</p>
	<p>それを受けて、園の焚火サイトを会場に実験開始！まずは、鍋に張った水に入れてみる事から。</p> <p>「泡は出ているけど溶けてこないよね…」しばらく様子を見ていたが、駄目だとわかり次の工程へ移ることに。</p>



鍋に溶岩を入れたまま焚火で熱湯にすることに。グツグツと煮立ってくると溶岩から多くさんの泡が出てきた。「溶岩の中の空気が暖められると膨れて爆発するんじゃない！」と言い出す子がいて、怖くなった子が徐々にその場から離れ始めるが、やはり溶けることはなく…。



そして、最後の実験へと、焚火の中に溶岩を入れてみる。
(爆発するのを恐れている子の中には、すぐに遠くに逃げられるようにとストライダーを用意する子も。子どもの感性と発想は本当に面白い…)
結局は、溶かすことは出来なかったわけだが、子どもたちのやり切った感のある顔が印象的だった。



実験を終えてのミーティングで、溶岩の中がどうなっているのかを見たいとの意見がたくさんあり、金槌を使って割ってみることになる。子どもたちが代わる代わる叩いてみるが割ることが出来ず、「ドリルを使って穴をあければ割れるんじゃないかなあ?!」との提案で、さっそく準備に取り掛かる…。



ドリルを使って穴をあけてみると…。さて、どうかなあ？



あいた小さな穴から中を覗き、観察する子どもたち。



その後、思っていた形に割れて中の様子を観察していたが、頭で描いていたような変化は感じられず、ここで敢え無く溶岩ブームは終了！！（大人が主導すればもう少しブームを継続することは可能だが、深追いたくないのも麦わらぼうしスタイル）

2 石探しブーム（溶岩ブームを踏まえて新たなブームへ）




溶岩ブームから数日後。突然思い出したように「もっといろんな石を探しに行こうよ！」の声がどこからともなく…。そこで、みんなで相談して河原へ行くことに決定。（この日を境に、いろいろな場所へと石探しの旅が繰り返されることに）



ちょうど護岸工事している場所があり歩いてみると…。普段見かける河原の石とは違う、様々な色や形の石を発見する子どもたち。



気に入った石を持ち帰りたいと孤軍奮闘する子どもたち。（無理かもしれないと分かっているけど、欲しいものは欲しいとがむしゃらになる、これも子どもの特権！）

	<p>「宝石を見つけたよ！」と、水晶を見つけて嬉しそうなMちゃん。</p>
	<p>石どうしをぶつけると割れる石があることに気づき、何度も割って中を確認していたS君。</p>
	<p>「こんな変わった石があったよ～」と見せに来てくれたT君だったが…、「あら残念」「それ石じゃなくて、瓦だよ！」でも、そんなことは問題ではなく、大事そうにお持ち帰りなのです！！</p>
	<p>「恐竜ブーム」から「溶岩ブーム」へ、そして「石探しブーム」へと継続していった今回のブームだった。 (写真は、「どれも大事なんだ！」と、気に入った石で重くなった袋を二人で協力して持ち帰っている様子)</p>

3 今年度の保育を振り返って

今年度も、子どもたちの園生活の中で、自然発生的に起こる興味や関心が子どもたち自らブームを興し、その一つのブームから再度興味を掘り起こし次へのブームへと発展していく様子が何度も見られた。コロナ感染症が続く中で外部との交流も制限され、新鮮な体験が少なくなってしまうがちなここ数年だが、来年度も、「子どもたちこそ自然」という麦わらぼうしの理念の基、子どもが主体で遊びを通して深い学びへと繋がって行ける環境を整えていきたいと考える。